

会長挨拶

郡 司 健 (大阪学院大学)

本年3月11日に発生した東日本大震災に被災された多くの方々に心からお見舞いを申し上げます。一日も早い復興をお祈りする次第です。

この度の震災は、巨大地震・巨大津波・原発事故という、想像を絶する未曾有の大災害であります。その復興は、単なる復旧・復元ではなく、経験された多くの困難・課題を踏まえて、新たな社会・経済・環境を構築することが肝要と思われまます。

今回の震災が社会・経済・環境にもたらした事実と影響を綿密に把握・分析し、その結果を踏まえてあるべき方向を模索することは、われわれに与えられた重要な課題と考えます。社会関連会計は、グローバルな視点から、時の経過において起こる社会・経済・環境の変化に対して常に敏感でなければならないし、そのなかから普遍的なるものを析出すること、まさに「不易と流行」を見極めることが重要と思われまます。しかも、歴史の流れの中で、流行がいずれ不易となり、逆に不易と思われたものが結果的に流行でしかなかった、ということもあり得るでしょう。

社会関連会計学会も間もなく4半世紀を迎えます。社会関連会計学が、学として成熟するためには、やはり政策的研究・理論的研究とともに歴史的研究も必要と思われまます。

社会関連会計の理論・政策・歴史の確立へ向けて研鑽し、社会に貢献することがわれわれに課せられた重要な使命の一つと愚考します。

2011年11月